



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (1月13日～15日)

1. イラン—パキスタン・ガス・パイプラインの敷設 (13日付イラン・ニューズ紙)

先日イランからパキスタンへ5億ドルを融資することで合意したイラン—パキスタン間ガス・パイプライン (IP ガス・パイプライン) 敷設に関し、パキスタン側での工事をイランの民間企業に請け負うよう、イラン政府は要請している。日量7億5,000万立方メートルを供給予定のIPガス・パイプライン計画に関しては、2014年12月の完成が目指されている。

2. 補助金合理化第二弾に対する国会の反対 (13日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

アリー・ラーリージャーニー国会議長は、補助金合理化第二弾に関する国会の決定に関して、「国民は燃料価格を現在の5倍にするなどの経済圧力には耐えられない」と述べた。モタッハリ議員なども、国会補助金合理化第二弾に反対の立場をとることを明らかにしている。

3. 外貨準備高の減少 (14日付シャルグ紙)

英国紙が2012年12月に発表した報告書では、イランの金を除く外貨準備高は796億900万米ドルであり、2013年末にはこれより100億米ドル少ない690億米ドルになると予測されている。なお、2014年には、さらに少ない630億米ドルとなるとされる。

4. 輸入総額と赤字額 (14日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

為替センターのキャリーミ報道官は、「現在の非石油製品輸出額は280億米ドル (2012年3月から8カ月間) である一方、イランの輸入総額は370億米ドル (同期間) であり、原油輸出を除くと90億米ドルの赤字となっている。しかし、為替センターのレートと市場レートは現在、安定的に推移しており、この2つのレートの差は縮まるであろうと予測される」と述べた。

5. 欧州航空各社の運航停止 [13日付TREND (アゼルバイジャン) 他]

週4便運航中のKLM航空が2013年4月から運航を停止する。また、2013年1月13日より週3便運航していたオーストリア航空も運航を停止する。西側諸国による制裁でリヤル貨が下落したために、イラン人の購買力が落ちていることの現れであると英国の通信社は報じている。なお、ルフトハンザ航空およびアリタリア航空は運航を継続する (注: 一部紙面では、

欧州のエアラインの中でルフトハンザ航空のみが運航を継続するとの記載があったが、現在の所、アリタリア航空も継続する見込み)。

6. 低所得者向け住宅プロジェクト (13日付シャルグ紙)

政府による様々な低所得者向け住宅プロジェクトが実行されているにもかかわらず、月給のうち50~100%を家賃に支出している賃貸居住者が、500万人存在する。

7. イラン・ホドロ社の自動車生産台数 (14日付アブラーレ・エグテサーディー紙)

2013年2~3月におけるイラン・ホドロ社の自動車生産台数は、1日当たり2,500台となる見込みである。担当者によると、プジョー206の生産は今月から再開され、1日当たり300台生産される見通しである。

8. 自動車部品の輸入額 (15日付シャルグ紙)

ヒジュラ太陽暦(イラン暦)1391年(2012年3月20日~2013年3月20日)の9カ月間で、4億7,400万米ドル分の自動車部品が輸入された。一番多い月(1391年ホルダード月;5月21日~6月20日)で6億米ドル、一番少ない月(1391年シャフリーヴァル月;8月22日~9月21日)で2億5,000万米ドルである。主な輸入先は、中国(1億2,660万米ドル)、韓国(1億1,470万米ドル)、トルコ(3,510万米ドル)である。